

原稿執筆要項

1. 執筆内容

看護実践研究指導事業報告書の原稿には下記の各項目を含める。

1) 今年度の事業報告

以下の内容を必ず含める。

- ・テーマ、担当教員
- ・目的（本事業の必要性）
- ・本事業で実施したこと（実施方法・内容・結果）
 - ＊結果には、個別訪問研修、ワークショップ、報告会等、方法ごとの実績として、対象施設の種類・対象者の職種（・職位）別の数、修了証の交付数を含む
- ・参加看護職の意見
- ・教員の自己点検評価
- ・今後の課題、発展の方向性

＊備考：報告書原稿の締め切り後の研修会開催等、今年度の報告書に活動実績を掲載できない場合、その内容は次年度の報告書原稿に記載する。

2) 今年度に終了するテーマの総括報告（上記1. とは別に必要）

以下の内容を必ず含め、6枚（A4）以内で作成する。

- ・テーマ、担当教員
- ・目的（本事業の必要性）
- ・実施方法・内容・結果（参加看護職数・面接者数等、数量的な実績を含む）
- ・成果（実践現場・看護職に与えた影響、看護職の研修としての有用性、本学の研究・教育活動に与えた影響など）
- ・実施にあたり困難な（困難だった）点、工夫したことなど

2. 倫理的配慮

報告書は、冊子刊行後、本学が運営管理するホームページや本学の教育研究活動の成果物を電子的形態で蓄積・管理している岐阜県立看護大学リポジトリなどを通じてインターネット上に公開する。なお、岐阜県立看護大学リポジトリは、本学ホームページのトップページ（広報・地域連携）にあるアイコン リポジトリ・紀要・研究報告 からアクセスできる。

3. 執筆様式について

- ・オフセット印刷とするため、原稿の書き方は下記のとおりとする。
- 1) 書式はA4縦置き横書きで、ワードプロセッサを使用する。
- 2) 図・表を含め1段組みで1ページとする。但し、内容によっては、表のみをまとめて、資料として本文末に添付する形式も可能であるが、資料は必要最小限にする。
- 3) 余白は上20mm、下20mm、右25mm、左25mmとし、「標準の文字数を使う」を指定する。
- 4) ポイント数は、本文（見出しを含む）10ポイントとする。
- 5) フォントは、見出し番号“Ⅰ.”および“1.”：MSゴシック太字、見出し番号“1）”：MSゴシック、“(1)”以下の見出し番号および見出し以外の本文：MS明朝とする。
- 6) 見出し番号は、Ⅰ. → 1. → 1) とし、これ以下は(1)もしくは①とする。なお、(1)の数字は半角とし、それ以外の数字、「.」、片括弧“)”および両括弧“()”はすべて全角とする。
- 7) 見出し番号以外の本文中にでてくる数字は、すべて半角とする。
- 8) 句読点は「、」「。」を使用する。
- 9) 文献の書き方は、本学紀要に準じる。
- 10) ページ番号は入れない。
- 11) アンダーライン、網掛けは使用不可とする（印刷したときの不鮮明さを防ぐため）。
- 12) 図・表は、印刷したときに鮮明に見えるかを配慮し、適切な表現に留意する。

2016年12月